

「恵みの中を生きるため」

～あなたを失うな！！パン種に注意。重荷を負われる神～

ガラテヤ5：1～9

私たちは、教会の家族とのまた、誰かとの一致を図ろうとする時に、心の中に浮かんでくる「不安と焦り」に対して解決していかなくてはなりません。神様とともにいる人たちが、平安を得られる理由はなんでしょう。そもそも平安とはなんでしょう。平安は絶えず将来に向かっていきます。将来に対しての目標が安心できるものであることが平安になっているのです。では、安心できる将来に対する平安とはなんでしょう。それは信じることです。では、なぜ信じることができるのでしょうか。それは、神様が将来を必ず良くしてくれらるという答えを持っているからです。私たちは、自分の将来を神様が必ず良くしてくれらると信じているのでしょうか。これが出来れば、私たちの心に不安と焦りはありません。恐れも無用です。ところがもし、恐れや不安があるのなら、その信じる心に対して何か疑いが持たされているのかもしれない。では、この心の中に疑いがもたらせる理由はなんでしょう。これを今日は考えて生きていたいと思います。

パン種に注意

パン種についてイエス様は新約聖書の中で何回もお話されています。パン種とはパンを膨らませるための種です。良い種なら熟成させる…時間をかけて寝かせておく…良いものが出来上がりますが、その種が悪かったらどうでしょう。私たちの心の中で、世の中のちょっとした影響は、その時にはそんなに影響を受けるものではないかもしれませんが、しかし見えないところで少しずつ私たちの心を蝕んで恵みを奪い去るものはないですか。この恵みを奪い去るために私たちにされていることは何なのかと言うと「自分を失う」という大きな恐れなのです。悪魔は、私たちが自分を失うように少しずつ私たちの働きかけをします。仕事も奉仕も何でも出来ます。だから、一見なんの影響も受けていないような感じで頑張るのです。しかし、振り向いてみると何のためにやっていたのか、知らず知らずのうちに自分・目的を失わされているのです。「ガラ 5:1 キリストは、自由を得させるために、私たちが解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい」とあるように自分が自分でなくなると自由でなくなるのです。本当の自分…こうしたい！というものがあるのに出来ないのですから不自由なのです。だから、本当の自由を失わないために、少しずつ蝕まれた心を取り戻したいのです。その取り戻す方法は「すべてをさらけ出して、すべてを委ねて神の前に出る」です。忙しくなると、「何かのために」神の前に出るのです。役割や仕事の為に神様の前に出るとは、本当の神様が最初に私たちに創造された時の姿とは異なるのです。(5:5～9) 役割を果たす為に熱心に走ることが正しいのでしょうか。神様は、私たちが創造されたときからすでに私たちがどんな存在なのかすべてご存知なのです。働きや役割を果たすことで評価することは絶対ないのです。しかし悪魔は巧妙で人が役割を果たすことで評価させると間違った考えを少しずつ植え付けてきます。神様と一緒にいることを喜びとしてではなく仕事にしようとしているのです。私たちが神様の前に来るのは、いろいろなことのためではありません。神様が大好きだから来ています。私が私であるためなのです。

いつも神様の前に

今日の大きなテーマはこれです。私たちは何かをしなければいけないことではないのです。ただ神様の前に出ることだけは忘れてはいけないのです。仕事をする前、教会で何かする前…何か行動を起こす前に必ず神の前に出て祈るようにしましょう。そうすると心の葛藤やモヤモヤはなくなります。そして、もう一つ、恵みの中に生きて私が私である為に「口を制する」ことが必要です。賛美とのろいが同じ口から出てくることであってはいけないのです(ヤコブ 3:10)。神と語りうり、コミュニケーションをとる口を神様は人間に与えられたのです。アダムとイブの原罪以降、「ごめんください」「ありがとう」など、本当に心で思っていることが素直に言葉で表現できなくなっています。私たちは、それを止めなくてはなりません。神様の恵みの中に生きるためには「神様が創造された時の私」でいなければいけません。「神様が創造された時の私」でいられなくなるものは自分が言った言葉によるのです。人によってではありません。言葉を制し神の前に出ましょう。ダビデはこれを行う為に詩篇を作り、幕屋を建て、24時間賛美隊を組んで、いつも神様を賛美していました。調子が悪い時、不安な時も詩篇に書かれている(詩 68:19-20) 神を賛美する言葉を口ずさんでいたのです。神様に心に向けていきましょう。自分が大丈夫な理由は神様から来ています。悪魔は私たちの将来を見えなくして不安にさせるために過去の記憶を持ち出して将来を未来にします。将来と未来は違います。未来は未知です。分からずに来るものです。しかし将来は来るべくしてくるものです。だから、悪魔は私たちの考え方を「分からない」にし

たいのです。何をしたら良いのかも「分からない」。どう進めば良いのかも「分からない」。何の為に生きるのかも「分からない」。悪魔の最大の働きは自分を失わせること「分からない」にすることなのです。私たちの人生で「分からない」ことなんてありません。神は将来と希望を与える計画を私に持っています(エレミヤ 29:10,11)。だからいつも神様を前におき、本当の自分を取り戻しましょう。

- ①本当の自分を失うな
- ②相手を知る(一致)
- ③最善な方法で示す

本当の自分を知ると相手を分かるようになります。でも自分が分からないと相手に批判的になります。自分が分からないから、比較をして相手のすることに感情的になるのです。しかし、自分の役割や働きを理解していれば相手が比較対象にならないので感情的に相手を批判することはありません。しかし、自分にとって痛いと思っているところ・気になっているところを突かれる時がありますが、痛いと思うのではなく、ラッキーと思って受け止めましょう。神様は誰かを使って私たちの痛いと思っているところ・気になっているところを治療しようとしてくれているからです。神様は、私たちに意地悪をしません。どんな人を使っても私たちが真っ直ぐに戻したいだけなのです。だから、痛いと思っているところ・気になっているところを突かれて感情的になってはいけません。これを繰り返しては前に進むことが出来ないのです。そのためにも神様の前に出て、本当の自分を取り戻しましょう。

そして、神様の前に出て失っていた自分を取り戻し始めた時、その自分を最善な方法で示されなければいけません。根付いた過去の習慣を捨てなければいけません。私たちは教会で、統合されていない自己を見つけて本当の自分に戻るように古い自分を少しずつ治していくことを進めています。だいたい本当の自分を取り戻しているのですが、そこから働き方が、やる気など人間的な方法、つまり古い方法のことがあります。それでは、相手を変えることは出来ません。最善の方法は「愛」です。イエス様は一番底辺に来て正しいことを愛をもって伝えました。神様の前に出ると、愛をもって伝えることが出来るのです。理不尽に遭うこともあるでしょう。しかし、最大の理不尽にあったのはイエス様です。そのイエス様の前に出て、言葉に気をつけ、心を整えて、神様の愛を携えてへりくだって最善の方法で示していきましょう。

ギデオンの精鋭部隊

ギデオンがミデアン人と戦う時、神様は兵が多すぎると兵を選ばれました。恐れおののいている者を去らせ、水辺に連れて行き、膝をかめずに用心深く手で水をすくって飲んだわずか300人の精鋭を選ばれたのです。私たちが同様に。私たちの戦いは、生涯自分の人生に付きまとうものをキチンと見ているか見えていないかなのです。悪魔は私たちに付け入る隙をハイエナのようにかきまわっているのです。悪魔がどこにいるか分かっていますか。だから付け入る隙を与えてはいけません。ギデオンの精鋭はたった300人でも主がついておられたので主の働きによってミデアン人の大軍に勝利したのです。私たちが神様の前に出て、本当の自分を見つけたら、その本当の自分の姿が奪われないようにしっかりと見張ります。自分の弱点をしっかりと見張って悪魔にだまされないようにしましょう。

古いパン種=過去を捨てる

(1コリ 5:4～8)「～だった」「～された」といつまでも過去にとらわれていたら、いつまでも悪魔の支配に縛られることになってしまいます。この古いパン種で心がいっぱいになってしまうのです。そうすると自分の人生がそれですべてのようになってしまいます。だから古いパン種=過去を捨てなければいけません。将来に対する権威を持っているのは神様だけです。私たちの将来を満たし、前進させるのは神様なのです。そのために十字架にかかられたのです。過去に生きるのか将来に生きるのか決断するのは私たちです。将来を決断するものに神は祝福を与えます未来を見るものに神は働くことが出来ないからです。ぜひ神様を見て神様の前に出て本当の自分を取り戻していきましょう。

(要約者:行司 佳世)

(10月15日)